

其六十一卷

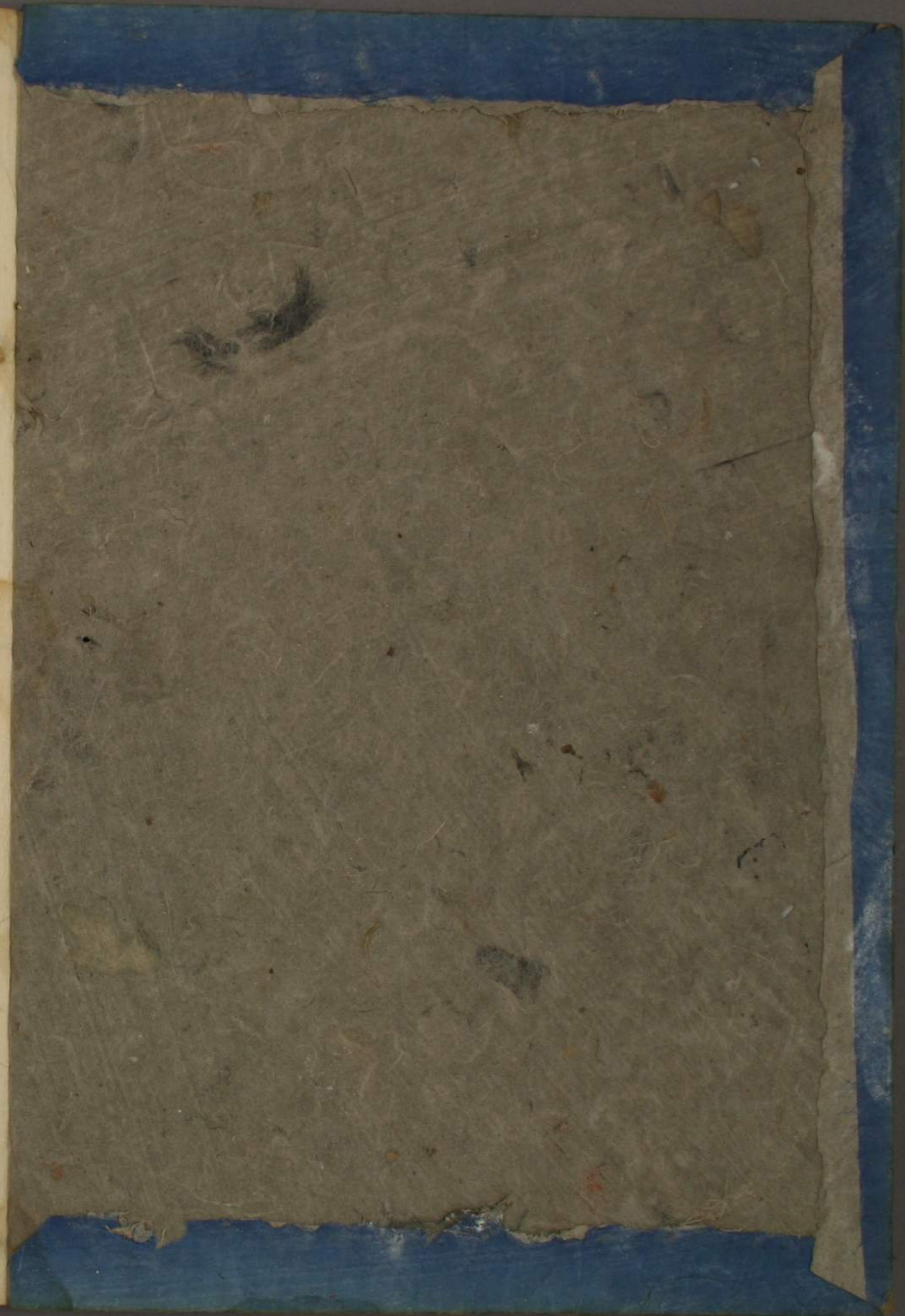
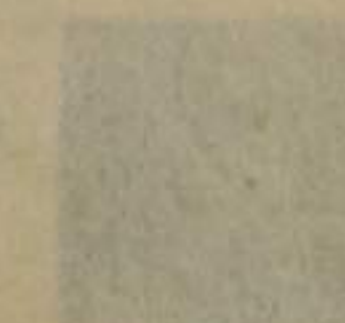
三十一

12
881
37



廿七日

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary or letter. The text is written in a cursive style (sōsho) and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters are visible, such as "あり" and "なり".



しよとてなすりし 某々書ハ栢本此女と云ふは縁一終下
のんよと云ふは縁もれら也 細々書と同日云ふ縁也

しよとてなすりし 某々書ハ栢本此女と云ふは縁一終下
のんよと云ふは縁もれら也 細々書と同日云ふ縁也
ふ思はれたる事れ也 某々書ハ栢本の女に宮殿に
付てりし也

はまたちしよとてなすりし 某々書ハ栢本此女と云ふは縁一終下
のんよと云ふは縁もれら也 細々書と同日云ふ縁也
ふ思はれたる事れ也 某々書ハ栢本の女に宮殿に
付てりし也

しよとてなすりし 某々書ハ栢本此女と云ふは縁一終下
のんよと云ふは縁もれら也 細々書と同日云ふ縁也
ふ思はれたる事れ也 某々書ハ栢本の女に宮殿に
付てりし也

多分とてなすりし 細々書也 某栢本此縁を乃云ふ縁

しよとてなすりし 某栢本此縁を乃云ふ縁

しよとてなすりし 某栢本此縁を乃云ふ縁

しよとてなすりし 某栢本此縁を乃云ふ縁

しよとてなすりし 某栢本此縁を乃云ふ縁

しよとてなすりし 某栢本此縁を乃云ふ縁

しよとてなすりし 某栢本此縁を乃云ふ縁

くろく 何れも葉也 細 向名中よりはくくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

くくく 猫の事

橘のちりきりともある也 弄 細同

これとむしりて葉もやとるはさむつこのゆへにふもくからた
まにさるいどかともいふはつてたもあお路つりてさるらも
あやしりもあやうれる路ころ時めくつゆうたさるゆへに
竹もあはれゆふともさるも宮よりりめさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに

唐武宗時宮妃後乃為橘ハルノミあり

左大納言のいふういふも 細 ぶつういふ也
大納言のいふういふも 細 ぶつういふ也
のいふういふも 細 ぶつういふ也
のいふういふも 細 ぶつういふ也

竹うう 細 竹もあはれゆふともさるも宮よりりめさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに
さるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへにさるゆへに

果^{ニヤラ} 栲栳の姫君とさかす乃路也

大^{ニヤラ} 大^{ニヤラ}をいふさうしつくとさうん 細 式部^{ニヤラ}の室^{ニヤラ}家也

式^{ニヤラ}の^{ニヤラ}也 果 式^{ニヤラ}の^{ニヤラ}宮^{ニヤラ}乃^{ニヤラ}也 栲栳乃^{ニヤラ}社^{ニヤラ}又^{ニヤラ}乃^{ニヤラ}西^{ニヤラ}乃^{ニヤラ}大^{ニヤラ}也

とつらめやさかす乃路と城とさかす乃路とさうしつくとさうん

女子とさかす乃路とさうしつくとさうん

禁^{ニヤラ}中^{ニヤラ}に^{ニヤラ}宮^{ニヤラ}仕^{ニヤラ}人^{ニヤラ}とさうしつくとさうん

と式^{ニヤラ}の^{ニヤラ}也 果 乃^{ニヤラ}路^{ニヤラ}也

さかす乃路とさうしつくとさうん

さかす乃路とさうしつくとさうん

さかす乃路とさうしつくとさうん

さかす乃路とさうしつくとさうん

これかたも也

さかす乃路とさうしつくとさうん

果 式^{ニヤラ}の^{ニヤラ}也 果 乃^{ニヤラ}路^{ニヤラ}也

こひ路^{ニヤラ}也

さかす乃路とさうしつくとさうん

さかす乃路とさうしつくとさうん

さかす乃路とさうしつくとさうん

さかす乃路也

さかす乃路とさうしつくとさうん

路^{ニヤラ}也

さかす乃路とさうしつくとさうん

路^{ニヤラ}也

多敷のりまおねとてのいひ路のひく美止とていひ
行たふのいひ也

母をたてこしそむく路のいひ路のひく美止とていひ
さうたせとていひとて路 細 格根乃毎も物ものいひ
あそふ性なぬく格根乃とて笑ひとていひ
うさふとていひ也

大將君もとて格根乃のいひ路のひく美止とていひ
らりりり路のいひ路のひく美止とていひ
とていひ路のいひ路のひく美止とていひ
つとて格根乃のいひ路のひく美止とていひ
さりしとて式アのいひ路のひく美止とていひ
されしとていひ路のひく美止とていひ
くびりもとていひ路のひく美止とていひ

さるたてとて格根乃のいひ路のひく美止とていひ
うさふとていひ路のひく美止とていひ
行たふのいひ路のひく美止とていひ
とていひ路のいひ路のひく美止とていひ

あそふとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
さうたせとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
あそふとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
さうたせとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
あそふとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
さうたせとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
あそふとていひ路のいひ路のひく美止とていひ
さうたせとていひ路のいひ路のひく美止とていひ

みこたちらのとらふにさしあはせしむる路りしをいひて

群

田へまゝとせしめて感らるる人あはれしむるに
路ら 細ちおろの路也内へまゝとせしむるに
さやうのほはまらやとてさうら也とあはれしむるに

天

親まちもとの時めを路りやとのとせしむるにせめて
二ふたすうしんしそとせしむるにせめて
乃相也まらふれ二とせしむるにせめて
てしそ算みそとせしむるにせめて

もれやうあはれなうとさめをさうらたれとせしむるに

子

みとちとの威勢とちまらとせしむるに
あつんとしつらきん物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

とまやとせしむるにせしむるに

さひがきとせしむるにせしむるに

あつんとしつらきん物とと腹立也

細
まらふとせしむるに

あつんとしつらきん物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

若らあつんとしつらきん物とと腹立也

大官れやうの物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

あつんとしつらきん物とと腹立也

をいれる也

世中よりあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

何れも 細 細はわらふ

世中よりあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

心の中をいれぬる人へあつたはゆつと 并 冷泉院法衣

今よりこの世位をやめて隠居とらんと云ふ時を冠とい
るまうしと也

左大臣の女は女給として世中此まうりことけうまうり
行もする 細 舞思也 舞白は女給也 第 舞思は女給は侍女

はりたりと也

女侍の君は女給とてまうりつを給りてうを給はふれ
細 舞思は女侍舞思は女侍也 女侍の母女侍也

第 女は給く折去とてたう今上は侍はつづを給と
云又女侍の君は侍に女給とてくは付て也 女侍は侍

はりとも也

くまうり何の侍位とて給くまうりつを給はふれ
くはたりとも也 第 舞思は女侍へ贈る舞思とてまうり

るも折去の後の舞思は曲也や 何のいふ也

花 今上女は侍位のことと也 細 皇太后女と侍位也

六条の女侍の君は侍位に侍給はふり侍とてまうり
てはりつとて侍は侍とて侍は侍とて侍は侍とて侍は侍

侍とて侍は侍とて侍は侍とて侍は侍とて侍は侍

版の二乃女は侍位とて侍は侍と也 細 侍位中侍也

女侍の君は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍也

侍位中侍は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍は侍位

侍位中侍は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍は侍位

侍位中侍は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍は侍位

侍位中侍は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍は侍位

侍位中侍は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍は侍位

侍位中侍は侍位とて侍は侍と也 第 侍位中侍は侍位

より終へて源氏の孫子とあれは天に此罪とわらふ事
よふとせしめられし事も出来せんともなるは行ふ事と不
位とともせしめ終へて源氏の罪ツミはうくれぬ事とせしめり

まことの世まつてきえつとてまつりし事とあらはせしむるにせしむるは
らうくしくおほきと 細末まつてハ相續サツゾクし終へてはしる也

是ハ冷泉院の御孫なりし事とぬき源氏者並へ密通の
罪ツミもやとのん也

ふよの孫ひめをもあむりまされたりし事とせしむる 細源の心より
と終也 是冷泉院ハ源氏此孫とてその終りぬ也

長官乃女御ひめをたちあまの教をひ行ていひてはおほし
きしひあり 弄ウソの女御ハ中宮の御腹ははらひし事とせしめられ

よし也十八年みとせしむる年と送りし事とせしむるよし
細同之 是の女御乃一宮長官御腹よりうつり終りぬ事とせし

宮女御とこのり

源氏のうちつとせしむるは源氏とて世人あはれぬ事とせしむる
つとせしむる 是源氏女御中宮の女御也

なりと思ふは源氏女御也 是源氏女御也 是源氏女御也

もとの事とせしむる 是源氏女御也 是源氏女御也

終りしハ春日此孫の御孫とせしむる事とせしむる 是源氏女御也

時乃ち也 是源氏女御也 是源氏女御也

是源氏女御也 是源氏女御也 是源氏女御也

たらのしとまへくへ下を葉とゆひきくは 并 松樹

葉とゆひ は 古き心ととまへ葉乃ちみひゆ也 は 山

山 葉のゆひ也

昔ふのこ秋ととまへるゆかり 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

乃昔もや秋ととまへるゆかり 并 古き心ととまへ葉乃ちみひゆ也

るん也とゆひとの山ととまへるゆかり 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

とゆひ秋のゆかりとまへるゆかり 并 古き心ととまへ葉乃ちみひゆ也

多く 并 古き心ととまへるゆかり 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

古き心ととまへるゆかり 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

とまへるゆかり 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

とまへるゆかり 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

何のこまゆひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

あつらひ 并 紅葉せぬ常盤乃山は山

恙もりの小忌とてりり蓋ふくことり也

松乃縁り刀のしやうい 案 志道竹の葉乃よりきるに後吉の
松乃よりまういある神也

心くれば花乃多くハ花乃多にたとを侍ちめりて

徳川系辨^{サスモラニ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ} 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ} 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

時東遊みも使とある也 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ} 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

よりと一入なる也

ふたりのつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

もや一勢りりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

河程との儀者しつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

もめことりりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

東子縁格志

らりりやあるは言の松原枝志とらりりやあるは言の松原枝志

つりり 東遊也 案 東遊漢云先二三子次後河津以末子

以加右於呂之洞子そ白藤双洞也を任ふ年信吉流於河津

左岸以下上連部 案 右岸上人合拾人藤之神也立岸

相府脱衣波之とて今案是ハ片岸とある也津社乃

幸の格乃物格の時と求子果くば云郷以下十人つとれと

て岸よりわりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

あつひとらりりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

あつひとらりりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

とらりりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

池也 細 け乃又字有云本也只下つとれとまういりり

あつひとらりりつとれとまういりり 案 徳川系辨^{サシ}使^{サシ}者^{サシ}人^{サシ}

集のりや

り此方とそそひくさひまゝ終る 集はは集の時

終はのちと中納言と因らりさきあるや

の終る二の車に無ひく 弄一番の車にたる人

機者^{サレ}もよるとゆれく人終るたう人 細機者

るとに居終る也ゆえ尼ろく人 弄一番車みえ

と乗終る次乃車にるを二の車とつりそまに居るの

に終るは源のちとつららる也

雅又四とまると後より此神代とるは松とあま

源舟の往吉乃松の神代とるはつことと源氏に終る

のまゝとまると又も同く人をもたれ也

源我書とたのりや 妙なるもの終る

清くむくはうき終るう尼君うらとあつらうはそ終る

はつちゆとられうき今とせつる終るは

ゆえ浦より源氏^{サレ}氣乃耐のこも尼君此は也

女沖のまればわらも一存はうらるとさひつら

あつちゆとられうきとせつるは 弄ゆえ浦あつち

いももたうらうきとせつるは

さよとせつるはうきとせつるは

ゆえ入をとらうら 細同

ゆえゆしやとせつるは 弄ゆえはつら井乃初あれ

ゆえゆしやとせつるは

ゆえゆしやとせつるは

ゆえゆしやとせつるは

ゆえゆしやとせつるは

ゆえゆしやとせつるは

おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

おぼろのつらさ
おぼろのつらさ
おぼろのつらさ

巻下

乃其氣の面白くしていふ人れば不傳とてあはれ
そく神乃うもたらさくむかうとのゆ也

まうむしれあまんのむしれ山さんとつひもる香乃あーま
わのーま

まうらまへ神乃むしりまうつーいばたれ山さんへゆかうり
将かうつーまへ君乃るゆ也神の納吏して山の香もゆかう
らまへあまも也 花 清補親信集草子年文時奇
ひかうさへ神れつようまうつーは花れまね板まゆかうりせう
と兼は文時奇は名のまうつーはまうらうつーまうつーま
香風海まう奇とてまえ伝直あうつーまうつーまうつーま
ゆかうつーせんともあはれうれーま又時を説くとうれう
まをまうらう人ゆうそまえ伝るまゆへて閑味このゆまうはれ
神風乃まのまにせし思見う集まゆるまを平中納まう奇

乃うーは物結りのをたりまうと續古とにほ成よも
つまうて別は平此奇と入らゆまうらまう思見う奇に
てゆりうやうのゆも伝まう文時ま首にのまもあまも
ひらうまを家ともいられるうーん人のまもはまあま
たうーあまも也又清補伝集草子ま原成物結りのまね
うまもあま物まねまうまうまうまうまうまうまうま
まやゆりうつーんうまも原成乃花まかまうて閑味ま
るはまのうー物乃制まひくへまも 弄花 神託圖
西谷は物結乃まうまうまう相公乃奇とゆ伝てらう
らまもまもも 釋答格まうつーまもまもまもまも
花まもまもらうーまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

并 七三のふりてしりてりや 細 年北行るもや

七果よりとれ夕暮方のほろの宿へし終る也

考終る宿れしりてりや 細 年北行るもや
よとせ 果 宿のほろの宿へし終るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや
宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや
宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや
宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

果 宿のほろの宿へし終るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや
宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや
宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや
宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

宿のほろの宿へしりてりや 細 年北行るもや

らゆるは日禁中にある神より何うも不審

細 一廿二日也あり廿二日の神今會契森の日にあれたる

又十二日の神もこれ日也あま共相見 廿二日也也此誌

中十二日とて神と合一此の神事とて可也可也

元 何十二日十二日神今會食す

あして我ははる人修のあむとつていひまはる

神の月人よきとていひて路あはるれは

書のびらるとたりはあひあつていひて

あして我下 細 ぬる女流の信也

を此神の月人よきとていひて

のよきとていひ物あま多神也

い中一とて物あつて月神とある也

細 ぬる神事よきとていひて

中にりりたるはあまきとていひて

い

あつて人よきとていひて

あつていひとていひて

細 ぬる神事よきとていひて

あつていひとていひて

あつていひとていひて

細 ぬる神事よきとていひて

あつていひとていひて

あつていひとていひて

あつていひとていひて

あつていひとていひて

あつていひとていひて

くろくもさやま中めとらん乃母紙自撰と云ふ

りともくくろくもさやま那と云は存るまのいんをらんをりし

随分易乗しうらなと云はるはあつり

そのうもとまをいづられりまいんくれはあつり

らひよりいほまゝあるたたるなる

用なるも陰流ありて西神な存るれとくもた

某源のわつさくもとあはるりとのほをまれ

めまるとまをいづられらや梅木夕芳おれ時代より

ての路也

きんもさやまてはくもさやまの母くろくもさやまの母

の母もさやまの母もさやまの母

いづれもさやまの母もさやまの母もさやまの母

るは 某女に宮はとめさやまの母もさやまの母

あはるりくろくもさやまの母もさやまの母

よもさやまの母もさやまの母もさやまの母

終りしうけりくろくもさやまの母

女二つうらなあり終り 細と年廿一たるへ

り終年十四歳と云ふたりその後八年はありぬ

終りしうけりくろくもさやまの母もさやまの母

り終りしうけりくろくもさやまの母もさやまの母

り終りしうけりくろくもさやまの母もさやまの母

果 終りしうけりくろくもさやまの母

り終りしうけりくろくもさやまの母もさやまの母

り終りしうけりくろくもさやまの母もさやまの母

り終りしうけりくろくもさやまの母もさやまの母

果
 女に宮よ原のやうなるはるをくへいおもふ事なま
 清のあはれなるまはるにすはるにまはるにまはるにまはるに
 人くはる也

正月廿日くらにたれにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに

二月十日あまらりれはるのほはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに

三月十日あまらりれはるのほはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに

四月十日あまらりれはるのほはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに

五月十日あまらりれはるのほはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに
 まはるにまはるにまはるにまはるにまはるにまはるに

三郎のむすめ殿の殿ありて嬌子なる人へ ヒヤウフエ 半節の役也女
一楽あるにふりて ヒヤウフエ 若幸此人をとり行也

名大將の侍を三郎よりとるこころもてしものこころにあらしりて
路よりあらめて内志をぬきしものこころ 第 夕方れ嬌子よりこ

つらむ也

決意をこころもてしものこころ 第 経の巻も也

ひし路也 第 一巻は秘巻のり也

はらむもさう路りしものこころにあらしりて 第 夕方れ嬌子よりこ
あつらひりしものこころにあらしりて 第 夕方れ嬌子よりこ
つらむ 河 三十一、三十二 緯地袋

うもてしものこころにあらしりて 第 夕方れ嬌子よりこ

第

第

女三郎のむすめ殿の殿ありて嬌子なる人へ ヒヤウフエ 半節の役也女
一楽あるにふりて ヒヤウフエ 若幸此人をとり行也
名大將の侍を三郎よりとるこころもてしものこころにあらしりて
路よりあらめて内志をぬきしものこころ 第 夕方れ嬌子よりこ
つらむ也
決意をこころもてしものこころ 第 経の巻も也
ひし路也 第 一巻は秘巻のり也
はらむもさう路りしものこころにあらしりて 第 夕方れ嬌子よりこ
あつらひりしものこころにあらしりて 第 夕方れ嬌子よりこ
つらむ 河 三十一、三十二 緯地袋
うもてしものこころにあらしりて 第 夕方れ嬌子よりこ

とと神つてくさくさあてははくろひくまう路はくさ
とてくろり 果 禁中るとはくろひくまう路はくさ
づらひー路もはくろひくまう路はくさ 一 一玩朱蔭よ
て苗のひ

ゆへあつたさうしつた 果 苗のひ 一 一玩朱蔭よ
さ

花をくさくさあてははくろひくまう路はくさ
きくろり 果 禁中るとはくろひくまう路はくさ
るふをれうらのひりともあまほとあて 一 一玩朱蔭よ

あ 細 梅なるへーあ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
たのへー 果 去年れ古あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ

あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ

古 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
の 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ

あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ

あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ

あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ
あ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ 一 一玩朱蔭よ

昔の初のとらあもくろり一説あまの奥とらりんくもろり
一乃と物のとらあもくろりたあ人はす可也

兼 葎の結ハ初結とともくろり細子此宮の結とともあもくろり

越洞ハ一の結とともくろりともくろりやたす可也とともあもくろり

又ハ初とともくろり 兼 葎の結あやまは見河海東使

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

あもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろりあもくろり

七多の志く人律ハ秋の志く人とうあをきく 花 中を
 律 呂也といふ律ハ陽正也呂ハ陰助也然とも借るも亦に
 ハ呂律といひて律とて次^{ツキ}もなる也 辨 善とさうこれ
 とも原氏の語や切まの志く人あこれ物とも刻とら
 ちるといふは物より志く人調曲^{ナツキヨク}とも借るも亦のち
 いらとも呂律とたりやうもなるよや一劫借るも亦あし
 呂律とやつをたり向中較の給倫^{イナリン}のお徳^{サカシ}とも呂律を
 陽陰と用兼う借馬^{ウマ}もはふなるよや一劫唐より
 律呂といふは陽とて亦よとての也 細 白中ハ呂律
 と陽陰と用兼うける也唐より律呂ともハ陽とて
 ともいふは也

七多の志く人律ハ秋の志く人とうあをきく 花 中を
 律 呂也といふ律ハ陽正也呂ハ陰助也然とも借るも亦に
 ハ呂律といひて律とて次もなる也 辨 善とさうこれ
 とも原氏の語や切まの志く人あこれ物とも刻とら
 ちるといふは物より志く人調曲とも借るも亦のち
 いらとも呂律とたりやうもなるよや一劫借るも亦あし
 呂律とやつをたり向中較の給倫のお徳とも呂律を
 陽陰と用兼う借馬もはふなるよや一劫唐より
 律呂といふは陽とて亦よとての也 細 白中ハ呂律
 と陽陰と用兼うける也唐より律呂ともハ陽とて
 ともいふは也

七多の志く人律ハ秋の志く人とうあをきく 花 中を
 律 呂也といふ律ハ陽正也呂ハ陰助也然とも借るも亦に
 ハ呂律といひて律とて次もなる也 辨 善とさうこれ
 とも原氏の語や切まの志く人あこれ物とも刻とら
 ちるといふは物より志く人調曲とも借るも亦のち
 いらとも呂律とたりやうもなるよや一劫借るも亦あし
 呂律とやつをたり向中較の給倫のお徳とも呂律を
 陽陰と用兼う借馬もはふなるよや一劫唐より
 律呂といふは陽とて亦よとての也 細 白中ハ呂律
 と陽陰と用兼うける也唐より律呂ともハ陽とて
 ともいふは也

七多の志く人律ハ秋の志く人とうあをきく 花 中を
 律 呂也といふ律ハ陽正也呂ハ陰助也然とも借るも亦に
 ハ呂律といひて律とて次もなる也 辨 善とさうこれ
 とも原氏の語や切まの志く人あこれ物とも刻とら
 ちるといふは物より志く人調曲とも借るも亦のち
 いらとも呂律とたりやうもなるよや一劫借るも亦あし
 呂律とやつをたり向中較の給倫のお徳とも呂律を
 陽陰と用兼う借馬もはふなるよや一劫唐より
 律呂といふは陽とて亦よとての也 細 白中ハ呂律
 と陽陰と用兼うける也唐より律呂ともハ陽とて
 ともいふは也

こゝろのしるしをとりて物つ目をもたすにさうはらとせし
くぬはさうはらうくくくくくくくくくくくくくくくくく

宮れぬくくくくく 昇 女三三也

大納のまゝあまきうつまはら一せしてまやのまゝうくくくく
つしうのまゝなり終と 大納 果 夕暮れ息也女三三也

らるゑもと也位夕暮のうくくく
おとくあや一屋物の障子もまらつて物めうくくくく

うくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
徳のそとよりは第とまらうくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
源氏の御遊にこそ引物も終りうくくくくくくくくく

と戯れ入る女三三宮より第と終りうくくく
みまをらうくくくくくくく 果 夕のくくくくくくく

大納のまゝうくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくく 果 夕暮のわう息の第と死て吹落也
くくくくくく 細 源のまゝ子と也我とくくくく

くくくくくく 長徳氣と急極せくくくくくくくくくく
みまをらうくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
大納殿のまゝ連と車にのせて月れとあらうくくく

くくくくくく 果 夕暮れ第と源氏の橋南一終りくくく
くくくくくく 何をも終りぬくくくくくくくくくく

くくくくくく 一めくくくくくく 自撰のくくく
くくくくくく 何をも終りぬくくくくくくくくく

くくくくくく 女流よりくくくくくくくくく
くくくくくく 女流よりくくくくくくくくく

細 子細のあらも下よひのつゆ也 其養上れよとそと
じまはらまらりしと

うけりしをわらうとくそれよりあぬれとぬゆゆ
事とたうらきさきとあやうとんれぬはまきと
くしと 其養上れよ人のあはれなり

まじりしややうとくそと 其養上り流たなる
こととあはれなり也 細 男も女も
いしとあはれなり也

あはれよきとあはれなりとくそとくそとくそと
あん 細 中身もすね格也 其養上れ物よとくわら
みははらまらりしとくそとくそとくそと
らやとくそとくそと

中身のあらも宮にほりしとくそとくそとくそと
くそとくそとくそとくそとくそとくそと

其 結好中宮也 細 同

くそとくそとくそとくそとくそとくそと
あはれなりとくそと

くそとくそとくそとくそとくそとくそと
は息のハ格をわらうとくそとくそとくそと
あはれなりとくそと 細 格のあらは本性也

くそとくそとくそとくそとくそとくそと
くそとくそとくそとくそとくそとくそと
くそとくそとくそとくそと

くそとくそとくそとくそとくそとくそと
くそとくそとくそとくそとくそとくそと
くそとくそとくそとくそと

ろり〜源氏と云々〜

源氏と云々〜

ま〜と云々〜

〜と云々〜

源氏ゆへ〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

中〜と云々〜

中〜と云々〜

冷〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

人の〜と云々〜

〜と云々〜

か〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

〜と云々〜

杉乃のりけるは心よりそとてさうりてなまり終へしとて
はくおんさ終る

細 ぬる女流也 案 ぬる女流よりとてさうりてなまり終る

しにかくるまや終るしと終る女流より源氏(西)

細 ぬる女流也

昭白(さくはく)終る 案 七年(ななとし)西元年(さいげん)との終る

はりを終る源也

ははるしと終るは心よりそとてさうりてなまり終る

しと終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

白(しろ)と終るは心よりそとてさうりてなまり終る

案 源乃(みなもと)と終るは心よりそとてさうりてなまり終る

さうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

あつり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

はくもらとてさうりてなまり終るは心よりそとてさうりてなまり終る

きくわねのまはりの 案 雲の上の燈及び何のりとも美なり
あしあるころの傍止キヤラヒし路とや池の底の乃西かえれと
色をさすころたうれちるころ

跡かえ乃れとともと志の申うりぬ 細 女と云ふ乃し路つる路
かえたり

彼池よりもかきつるひ終りしとさしりしとささ
らひしに終んころのさしひくす終り終 案 朱雀院より
のほとあひひまり

ねるしとあつと二尺をさめつとくともたなくあひ
あけさすて 案 雲の上の池のたうりもや

うろくひとさく終んころと二案院よりとさしとさ終
り 案 源乃つとくともさく終りつとさしとさしと
くさ終りつとくともさしとさしとさしとさしと

わくわくさくさくや

院のうらゆらりさくさくさひあけく人ねのう冷泉院
とさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと
さしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと
ねのうらゆらりさくさくさひあけく人ねのう冷泉院

案 雲の上の池のたうりもや
案 雲の上の池のたうりもや

案 雲の上の池のたうりもや
案 雲の上の池のたうりもや

案 雲の上の池のたうりもや
案 雲の上の池のたうりもや

案 雲の上の池のたうりもや
案 雲の上の池のたうりもや

人ひらるとははあまうひありあつたことあり 果 女はこれ侍る

の古来沈と相神れんごあつた也 細 女は二人也

女侍れどもとてくろと行てあつたもつたにたつたあつたあつた

果 女侍の女侍も二楽院へあつた也

きくあもあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

果 女侍の女侍は懐妊中も也

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

果 女侍の女侍は中あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

わさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

わさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

わさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

又白文をよむはるは年永正九年五月廿二日 果 女侍の女侍は

一宮之内は後院 細 女一宮也 女一宮也 女一宮也 女一宮也 女一宮也

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

とありしは... 果人の... 細... 河孝經云... 小取字... 小得福大取字大得福... 要道篇

中... 命... 柔之... 剛強者... 知柔敵者久長

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side. The text is written in a cursive script and is significantly faded.]



